スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山口県萩市

自 治 体 名 ： 山口県萩市
担 当 課 名 ： 萩市教育委員会　学校教育課　部活動改革推進室
電 話 番 号 ： （0838）-25-3176

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	698.9 ㎢
人口	41,637人 ※令和6年12月末日
公立中学校数	13 校
公立中学校生徒数	845人 ※令和6年12月末日
部活動数	13部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済 （萩市部活動改革推進会議）
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	萩市における中学校部活動の地域移行にかかる改革スケジュールを策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

・本市には、スポーツ関連団体として、主に、萩市体育協会（加盟団体３３団体）、萩市スポーツ少年団（登録団体３２団体）、総合型スポーツクラブ（登録クラブ２団体）が存在するが、指導者の高齢化やスポーツを担う人材の減少などの問題を抱えている。（団体は令和４年４月時点の登録数）

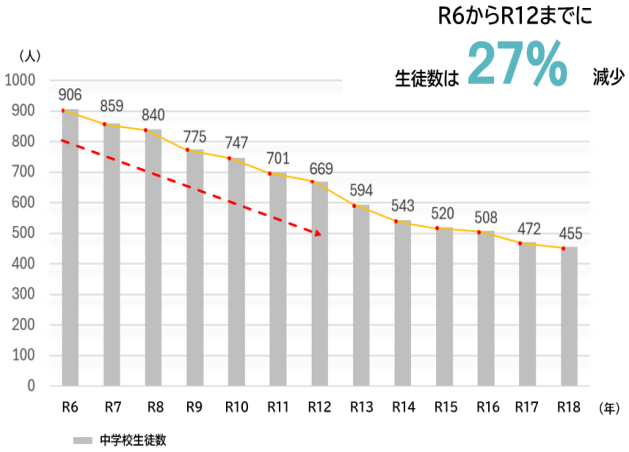
・本市の、教職員に対し地域クラブ移行に際し、兼職兼業を提出し地域クラブの指導者として関わっていただけるか調査を実施したが、83%の教職員が関わることが難しいと回答し、指導者の確保に苦慮している。

・本市は少子化が著しく、１５歳未満の割合は、人口の８.０％（令和５年９月末日現在の住民基本台帳）まで低下している。

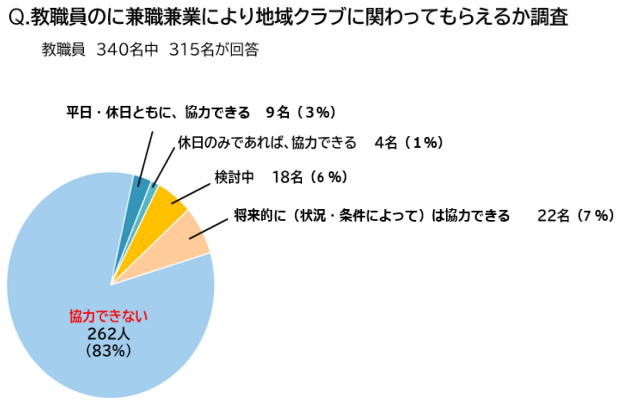
・少子化による学級数の減少、部活動においても、団体競技が難しく、地域クラブ活動の受け皿の創出が課題。

・本市は広域であり、島嶼部もあるため、地域クラブの活動場所までの移動手段が確立できていない。

【萩市における中学校生徒数の見込み】



【萩市における中学校生徒数の見込み】

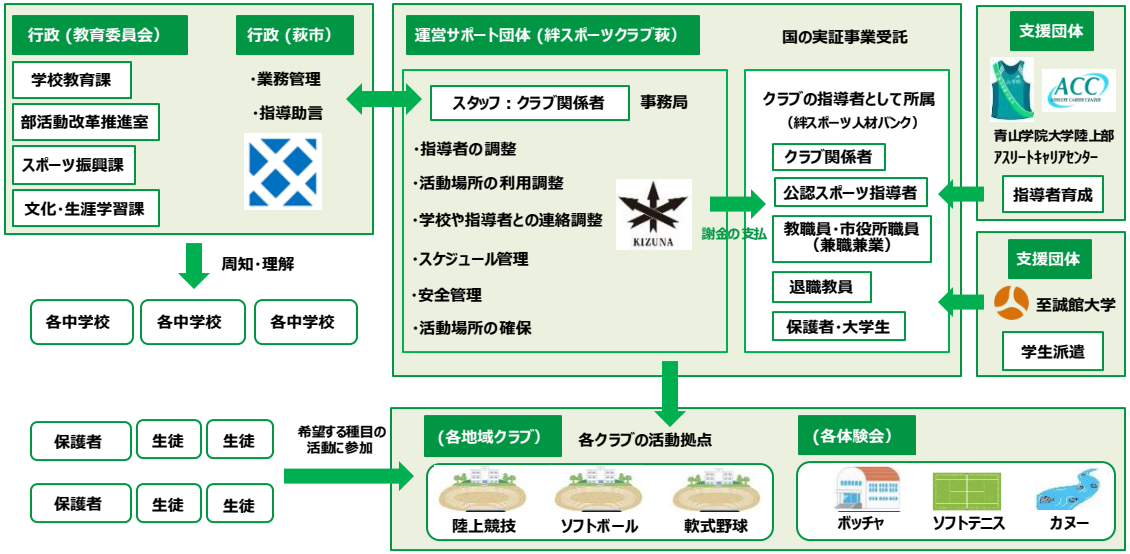


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（学校教育課、部活動改革推進室、スポーツ振興課、文化・生涯学習課）

- **・学校教育課**　各学校、学校運営協議会、保護者等との協議
- **・部活動改革推進室**　各種調整、部活動改革会議事務局
- **・スポーツ振興課**　萩市体育協会、社会スポーツ団体、スポーツ少年団等のスポーツ団体との協議,調整
- **・文化・生涯学習課**　萩市文化協会との協議,調整

◉首長部局　教育委員会への助言

●外部（協力団体）の役割分担

- **・絆スポーツクラブ萩**　地域クラブの運営、体験会の開催、指導者研修会
- **・至誠館大学**　学生の派遣協力
- **・青山学院大学陸上部/アスリートキャリアセンター**　指導者研修会、学生派遣、各種運営サポート

年間の事業スケジュール

令和６年４月	萩市教育委員会内に、「部活動改革推進室」の設置
	ソフトボール、軟式野球クラブの設立
令和６年６月	萩市議会6月定例会 一般質問
令和６年７月	第8回 部活動改革推進会議
	アドバイザー招聘（スポーツ庁）
令和６年９月	萩市議会９月定例会 一般質問
	各種体験会の開始
令和６年10月	地域移行に関するｱﾝｹｰﾄの実施（小学校5･6年生、中学校1･2年生）
	指導者育成研修会の開催
令和６年11月	地域移行に関するｱﾝｹｰﾄの実施（学校教員）
令和６年12月	萩市議会12月定例会 一般質問
	保護者説明会の実施
令和7年 1月	第9回 部活動改革推進会議
令和7年 2月	ICTの実証を実施

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	13校	実施した地域クラブ総数	3 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 部活
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2 クラブ
全体の指導者数	４１ 人	全体の運営スタッフ数	３ 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
絆ランニングクラブ萩	地域クラブ	陸上競技	月 約12回 週 3 回 （月･水･土）	月 17時 水 19時 土 8時30	1年 17名 2年 26名 3年 12名	R5.4月 ～	学校施設 社会体育施設	２３人	3人 （内、兼務３人）	月会費 3,000 円 年会費 3,000 円	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
ネクサスKIZUNAクラブ	地域クラブ	ソフトボール（新）	月 約8回 週 2 回 （水･土）	水 19時 土 8時30	1年 7名 2年 3名 3年 2名	R6.4月 ～	学校施設 社会体育施設	１２人	1 人 （内、兼務１人）	月会費 3,000 円 年会費 3,000 円	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
萩クラブ	地域クラブ	軟式野球（新）	月 約12回 週 3 回 （月･金･日）	平 19時 休 9時	1年12名 2年 7名	R6.4月 ～	学校施設	４人	1 人 （内、兼務１人）	月会費 2,000 円 年会費 3,000 円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●ソフトテニス教室　（計　５回）　● ボッチャ体験会　（計　２回）　●カヌー体験会　（計　２回）

2.実証内容と成果

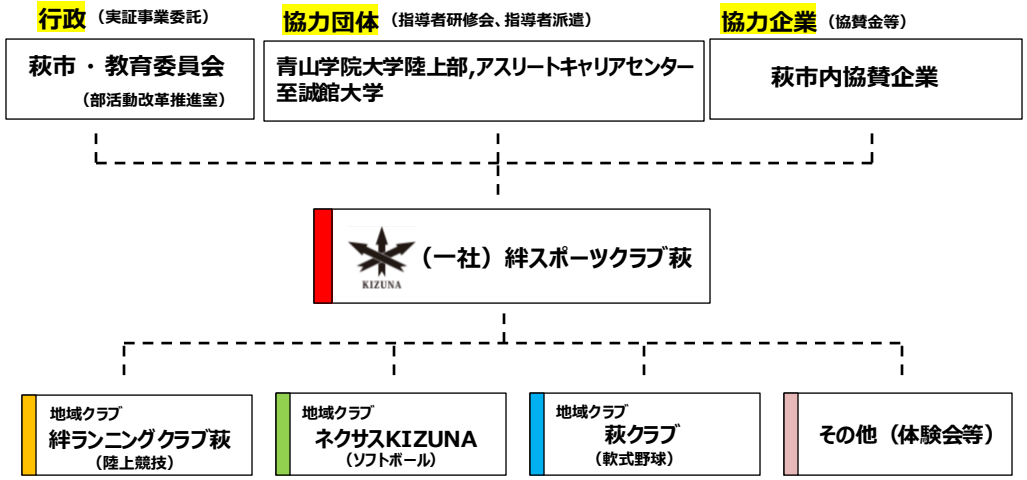
スポーツ庁

主な取組例

●絆スポーツクラブ萩　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技、ソフトボール、軟式野球
運営団体名	（一社）絆スポーツクラブ萩
期間と日数	陸上競技：月 約12回 (週３回) （月・水・土） ソフトボール：月 約8回 (週2 回) （水・土） 軟式野球：月 約12回（週３回） （月・金・日）
指導者の主な属性	公認スポーツ指導者、教職員（兼職兼業） 市役所職員・教員OB・大学生
活動場所	学校施設、社会体育施設
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者による移送
１人あたりの参加会費等（年額）	陸上競技　：40,000円 ソフトボール：40,000円 軟式野球　：28,000円 （年会費＋月謝＋保険料）
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括（絆スポーツクラブ萩）　10 名

役割：各クラブの指導者が理事となり、理事会等により情報共有を行う

●指導者

役割：地域クラブ活動の指導、大会引率等を行う

- 陸上競技　23名
- ソフトボール　12名
- 軟式野球　4名
- その他　2名

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・萩市では、「総括コーディネーター」と「地域クラブコーディネーター」の2名を配置。それぞれの役割を分けて業務を実施した。

・運営支援アプリを開発・導入し、地域クラブの運営に使用。（練習日誌等）

取組の内容

《総括コーディネーター：退職中学校長》
主な業務：学校との連絡調整、各種説明会への参加（校長会、各競技団体、保護者カフェ等）、CS1※プロジェクトの調整

《地域クラブコーディネーター：退職学校教員》
主な業務：地域クラブ（絆スポーツクラブ萩）事務局、謝金計算、施設予約、指導者連絡調整、保険加入手続き　等


教育委員会に2名配置


各競技団体との打ち合わせ


保護者カフェでの説明


運営支援アプリの導入

総括コーディネーターの具体的な動きの実績

〔学校との連絡調整〕
・定期的に市内（13校）校長を訪問・電話し、取組状況の聞取を実施（毎月1回以上）

〔各種協議や説明会〕
・市内競技団体との協議（11種目）、保護者カフェ参加（3回）、校長会（6回）

〔CS1プロジェクトの立ち上げに向けて〕
・各中学校区（13校）協議、調整を行った。
※各中学校区で地域の「ひと・こと・もの」を生かした生徒の活動の場を創出するもの。
体力づくりやレク活動、地域理解を深める活動、地域貢献活動　等

今後の課題と対応方針

《総括コーディネーター》
・部活動に代わる地域クラブの拡充（生徒の活動の場の保証）
・部活動改革の周知（小中学校、教職員、児童、生徒）
・地域らしさを生かしたCS1プロジェクトの立ち上げ
・地域人材、資源の積極的活用（予算の確保）

《地域クラブコーディネーター》
・地域クラブ（運営団体・実施主体）をまとめていく組織の設立
・地域クラブ活動に参加する子供たちを、将来的に地域クラブ活動を担う人材として育成していくこと（事務局含）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

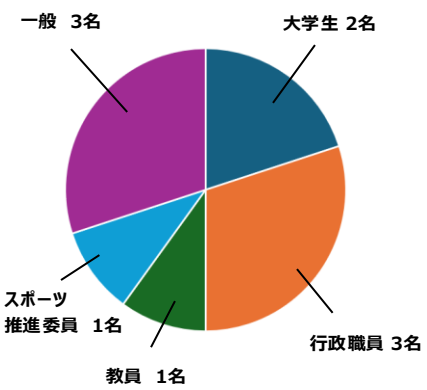
取組事項

「クラブコーチ育成研修会」の開催

「青山学院大学陸上部」と「一般社団法人アスリートキャリアセンター」が共同で開発した「※クラブコーチ育成研修会」を令和５年度に引き続き開催した。
今年度は、10名が受講し、研修会を受講した指導者が、クラブの指導を行った。
令和5年度に受講した参加者を対象に「フォローアップ研修会」を開催し、学び直しの機会を設定した。

※「クラブコーチ育成研修会」とは、箱根駅伝優勝常連校である、青山学院大学陸上部　原晋監督が、指導の中で培った「チームマネジメント手法」と「正しく安全な運動指導」の要素をカリキュラムとしてまとめた研修会。

研修会の様子・参加者属性





クラブコーチ育成研修会の様子

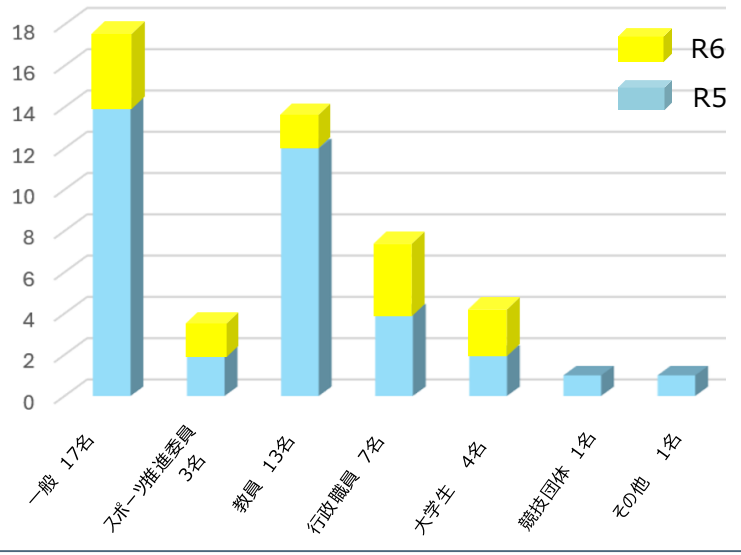
取組の成果・課題

【取組の成果】

「青山学院大学陸上部」と「一般社団法人アスリートキャリアセンター」が共同で開発した「クラブコーチ育成研修会」を令和５年度から開催し、合計46名が受講した。
研修会を学んだ指導者が、地域クラブの指導や体験会の指導を行い、安心・安全に指導できる体制整備を行った。
令和5年度は２日間連続の開催であったが、令和6年度においては、オンライン研修（３日間）と現地研修（1日間）に分けて開催することにより、参加者に参加しやすい環境を整えた。

【取組の課題】

「萩市」、「青山学院大学陸上部」、「アスリートキャリアセンター」、「絆スポーツクラブ萩」は連携協定の締結を進めているが、市内に地域クラブの指導者として協力できる人材が少なく、研修会の参加者を募ることに苦慮している。併せて、公認スポーツ指導者資格扱いとはならないため、地域クラブ指導者となるための要件を整えていく必要がある。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容・参加実績

【アスリートキャリアセンターと連携した研修会】

《①フォローアップ研修会》

令和５年度にクラブコーチ育成研修会を受講した方を対象に、フォローアップ研修会を実施。

実施日：令和６年10月26日（土）
時　間：13：30～17：20
参加者：16名



《②クラブコーチ育成研修会》

令和6年度、新規受講者を対象に実施。参加者の方が受講しやすいよう、オンラインと現地の日程を分けて実施。

実施日：第1回（ｵﾝﾗｲﾝ）　令和６年　8月　9日（金）
第2回（ｵﾝﾗｲﾝ）　令和６年　8月22日（木）
第3回（ｵﾝﾗｲﾝ）　令和６年　8月28日（水）
第4回（現地）　令和６年10月27日　（日）



参加者：　10名（大学生2名、行政職員3名、教員1名、スポーツ推進委員1名、一般3名）

【AED研修会】

地域クラブの指導者、保護者の方を対象にAED研修会を開催。
安心、安全に子どもたちの指導ができるよう取り組みを実施。地域クラブの指導者だけでなく、生徒保護者にも案内をかけて実施した。

実施日：令和６年７月6日（土）
開催時間：14：00～15：00
場　所：　消防署
参加人数：指導者 6名
　　保護者 4名





受講者の声

〔ソフトボール指導者：20代　女性〕
・これまで、地域クラブの指導に関わらせていただいて、子どもたちの「やる気」、「ニーズ」がそれぞれ違い、目標も多様であるため、どのように声掛けをして良いか悩ましい現状がありました。今回、指導者研修会を受講して、地域クラブ（組織）を運営していくうえで一番大切になってくることが、「クラブ理念」であることがよく理解できました。
「クラブ理念」をよく理解してもらい、子ども達個々の目標設定をさせて今後の指導を行いたいと思います。

〔陸上競技指導者：50代　男性〕
・これまで学校部活動は、「教員と生徒との関係」、「生徒同士の関係」で成り立ってきており、その学校の中に閉ざされた活動であったと感じています。これからは、地域全体というフィールドの中で、保護者、地域、様々な多世代の方を巻き込みながら開かれた活動にしていくことが大切であることが分かりました。

〔軟式野球指導者：30代　男性〕
・ただ「頑張る」のではなく、練習の意図を理解したうえで取り組むことが大切であることがよくわかりました。子ども達をサポートできるよう、指導者も学び続けなければならないと思いました。

今後の対応方針

・引き続き「青山学院大学陸上部」と「アスリートキャリアセンター」が共同開発した「クラブコーチ育成カリキュラム」の研修を実施し、生徒の多様なニーズに応えられる指導者の養成や資質向上の取組を進める。

・スポーツ・文化芸術団体の指導者のほか、退職教員、兼職兼業の許可を得て地域での指導者を望む教員、大学生など、様々な関係者から指導者を確保する。スポーツ・文化芸術団体等の協力を得ながら、指導者の発掘・把握に努め、人材バンクを整備する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

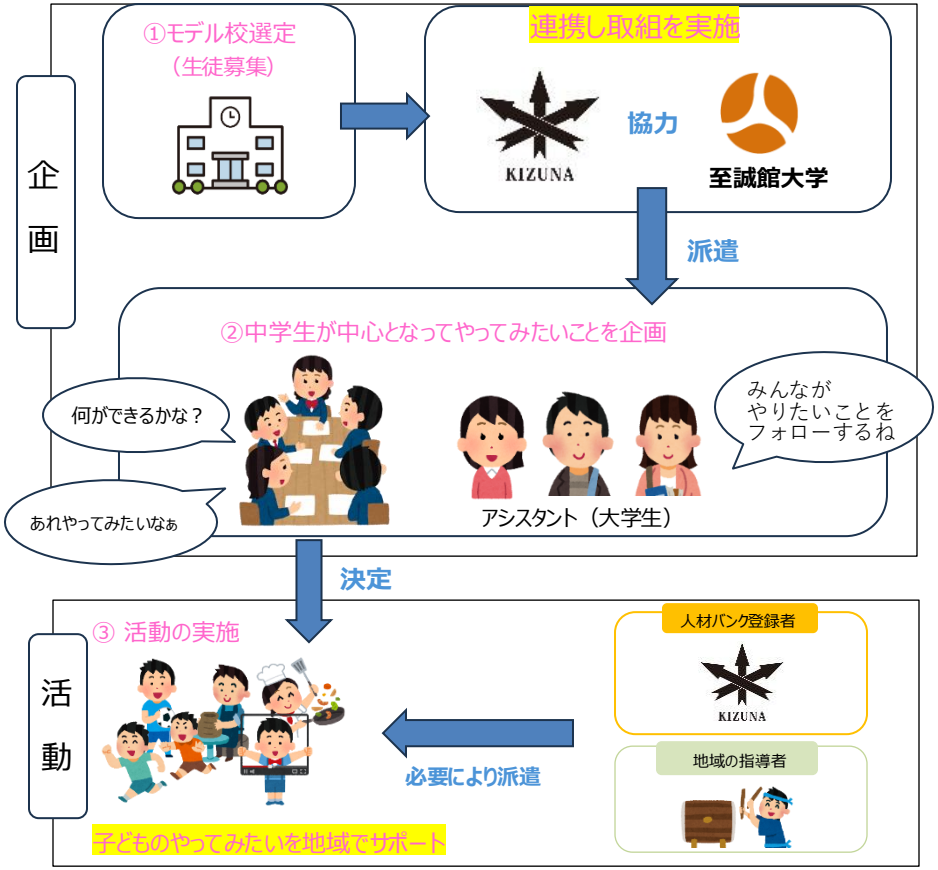
スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項/イメージ図

中学生の「やってみたい」に応えるため、絆スポーツクラブ萩及び至誠館大学が、平日の放課の活動を見越した実証として、生徒と企画から実施までを一体となって行う取組を実施。
多世代との交流や、自主的で、自発的な活動を通して地域社会に参画する機会を創出することを目的に、子どもの新たな居場所づくりに取組んだ。



取組の成果　《令和6年度　モデル２校の取組》

《第1回目》 自己紹介とやりたい事の確認（洗出し）

対象生徒： 24名 ※小学校5，6年生 ＋ 中学校１，２年生
ｽﾀｯﾌ： 大学生（３年生）3名




対象生徒： ７名 中学校１，２年生
ｽﾀｯﾌ： 絆スポーツクラブ萩：1名 、大学生（2年生）3名




《第2回目》 実施種目・活動内容の決定



〔実施種目〕
・ソフトバレーボール
（ルールは大学生が決定）



〔実施種目・活動〕
・サッカー、漬物づくり
（施設、指導者の交渉を行う）

《第３回目》 活動の実施



〔実施種目〕
・学校の小中学校の生徒（小中一貫校）で学生が考えた、ソフトバレーボールのルールで活動を実施。
（ボールを風船、鈴を入れる等工夫）

《第３回目》 活動の準備（交渉）



・中学生自ら、地元の指導が出来そうな方へ指導していただけるか交渉。

今後の課題と対応方針

〔成果〕
・大学生やスタッフとの関係構築が図れ、多世代交流を実施できた。
・教員免許状取得を目指す大学生にとって、中学生と交流することで良い経験を積めた
・生徒同士で様々な意見を出し合い、「やってみたい」活動の創出から実施までができた。
〔課題、対応方針〕
・次年度以降も、事業を継続していきたいが、学生の派遣頻度、学校の選定（広域で講師、スタッフの移動時間）等に課題がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

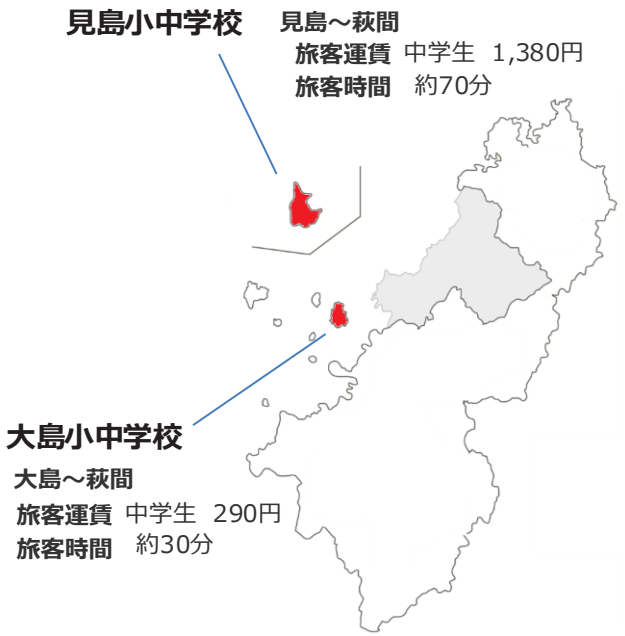
取組事項

オンライントレーニング指導（ICTを活用した取組）

「青山学院大学陸上部」と「一般社団法人アスリートキャリアセンター」が連携し、青山学院大学陸上部がトレーニング前に実践しているウォーミングアップ「青トレ」をオンラインで、島嶼部の中学校（小学生含）に対し実施した。
学校部活動では、日没までに下校しなければならず、ウォーミングアップも十分に出来ないことが多いため、ウォーミングアップを中心としたオンライントレーニングを実施した。







実施した生徒の感想

・ウォーミングアップの大切さについて学びました。ウォーミングアップの後に手足が軽くなったように感じたので、これからもやってみようと思いました。

・青トレ講座を通して、ウォーミングアップの大切さについて学ぶことができたので、次からウォーミングアップを積極的におこなっていきたいです。

・体育の時に準備運動をしっかりして、体を柔らかくしたいです。

・これから、おうちや学校で、ウォーミングアップをしっかりしてから走りたいなと思いました。

今後の課題と対応方針

・島嶼部の生徒は、特に平日移動して地域クラブ活動に参加することが難しいことから、ICTを活用して、子ども達をサポートする仕組みの構築が必要。

・今回、ウォーミングアップでの実証であったが、各競技種目の専門練習となった際には、実施方法の検討や、指導者が必要となる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実①

取組事項

地域の資源生かしたスポーツ体験会の開催

萩市の川上地域には、県営のダムとしては日本有数の規模を誇る阿武川ダムがある。ダムによって水量が安定供給されることから、ダムから放流される豊かな水量を利用したカヌーの競技場が設置されている。
日本代表クラスの選手などが参加するカヌージャパンカップ等全国規模の大会を毎年開催しており、本年は、そうした地域資源を活用し、カヌー協会協力の基、体験会を開催し、参加者の興味関心を得る取組を実施した。また、同地域では、小学校の体育館にボッチャの常設コート（ライン）を整備しており、年齢、性別、障がいの有無に関わらず全ての人が共に活動できるボッチャの普及も兼ね体験会を実施。地域移行は、様々なニーズがあるため、誰もが取り組みやすい種目も取り入れていく。

取組種目：カヌー体験会
実 施 日：　第1回目　令和6年　9月22日（日）参加者　5名
　　第2回目　令和6年10月12日（土）参加者　5名
指 導 者：体育協会関係者（カヌー協会）




今後の課題

・実際に行ってみると楽しく、関心が高いが「ウォーターセーフティ（安全）」対策を考慮する必要がある。
・季節的なスポーツとなるため、実施時期が限られる。

取組種目：ボッチャ体験会
実 施 日：令和6年　9月15日（日）参加者　5名
　　令和7年　1月29日（水）参加者　8名
指 導 者：スポーツ推進委員（指導者バンク登録）




今後の課題

・今後、より活動の幅を広げていきたいが、今回実施した会場までは距離があったため、保護者引率が必須であった。他会場で実施する場合、ラインテープ等の準備が必要となるため、会場の確保が課題となる。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、実証事業における収支構造の可視化を行い、適切な受益者負担額の設定や、公的資金のバランスについて検証を行なった。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

・ホームページ構築費用（30千円）
・事務用品（30千円）
・税理士報酬　等

■ランニングコストの分析

・指導者謝金（614千円/年間）
・事務局人件費（130千円/年間）
・消耗品費（30千円/年間）
・連絡アプリ使用料（66千円/年間）

〔その他〕
・大会参加費、登録費（生徒実費）
・会場費（R6は使用料減免で検証）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

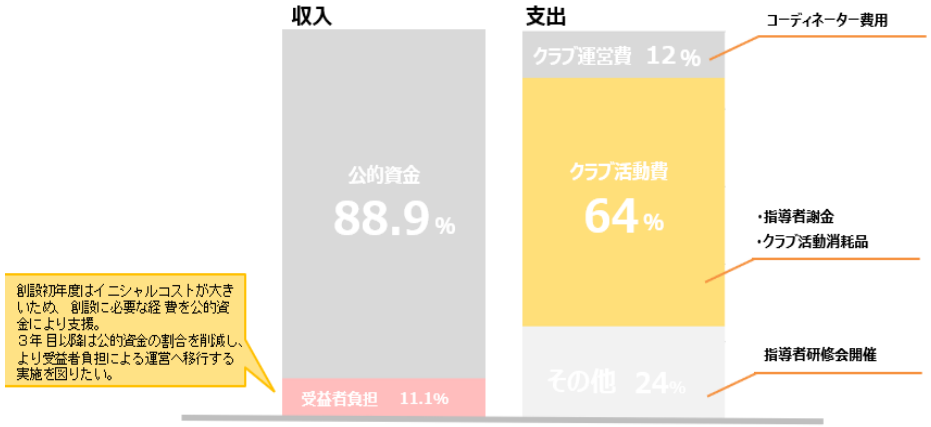
○1,600円/時給で地域クラブを実施した結果　※4月～2月末まで
※陸上競技、ソフトボール　平日2h、休日3h　週3回程度
※軟式野球　平日2h、休日3h　週2回程度
※3月上旬および体験会は除く

会費収入2,629,000円　－　支出（謝金）額　5,617,600円
＝　－2,988,600円

※指導者の人数を減らすと活動に安全運営に影響がでる懸念がある

○1000円/1回　とした場合、1,162,000円の黒字となり、事務局人件費等の確保の見込みがある額となるがイニシャルコストは賄うことは難しい

収支バランス



参加者からの低廉な会費徴収のみでは財源が不足している。 持続可能な活動を行っていくうえでは、民間企業からの寄付や、ふるさと納税を活用した取組を実施していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等②

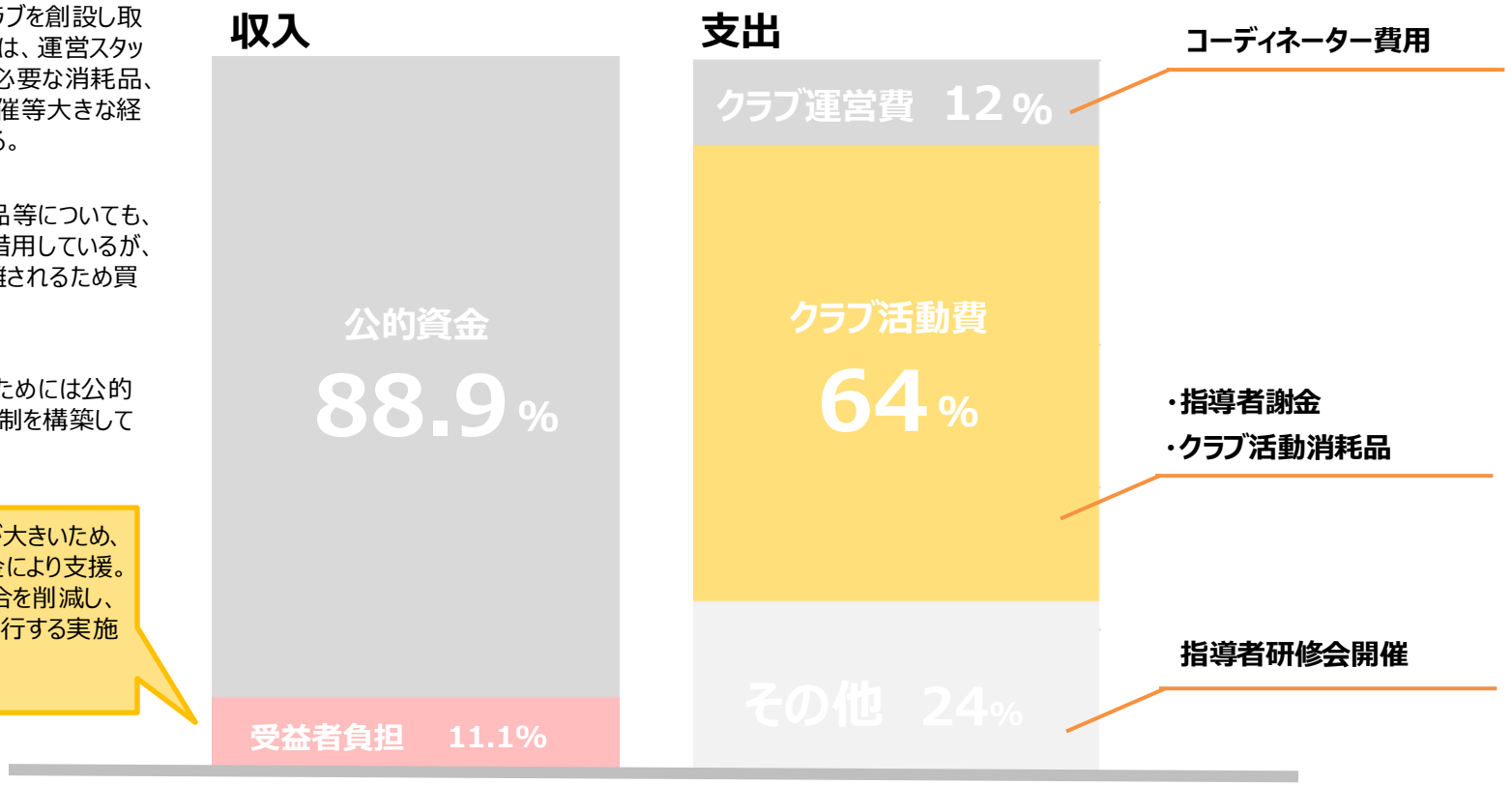
地域クラブに係る経費

令和6年度は新たに2つの地域クラブを創設し取組を行ったが、地域クラブの運営には、運営スタッフ・ 指導者謝金、クラブに最低限必要な消耗品、指導者育成のための研修会の開催等大きな経費（イニシャルコスト）が必要となる。

クラブ活動 に必要な備品や消耗品等についても、現在は学校が所有しているものを借用しているが、将来的には学校の予算から切り離されるため買い替えるための費用が必要となる。

地域クラブの持続的な活動を行うためには公的資金に頼りすぎないクラブの運営体制を構築していく必要がある。

創設初年度はイニシャルコストが大きいため、創設に必要な経 費を公的資金により支援。３年 目以降は公的資金の割合を削減し、より受益者負担による運営へ移行する実施を図りたい。



部活動の地域クラブ移行には持続可能な運営を実現させるためには、財源確保が必須であり、参加者からの低廉な会費徴収のみでは財源が不足してしまうため、引き続き民間企業からの寄付や、ふるさと納税を活用した取組を実施していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等②　（HPを活用した企業からの協賛金、スポーツ用品寄付の募集）

取組の成果

地元企業からの協賛金により、充実した活動の実施。

HPに協賛金募集のバナーを設置。市内企業より協賛をいただき、道具等を支援いただいた。会費収入だけだなく、地域クラブ運営を支える仕組みを構築。
協賛金は、イベント（講師謝金）や、備品購入に使用した。



HPによる協賛（道具）募集

どんどん DONDON
HATTORI 本物。
有限会社大玉建設



協賛企業ロゴを添付し、企業PRを地域クラブ側も行った



トップアスリートの講習会を開催

スポーツ用品の寄付で子ども達の持続可能なスポーツ環境の整備

HPにスポーツ用品寄付募集のバナーを設置。様々な方より道具の寄付をいただき、地域クラブ運営を支える仕組みを構築。

（寄付された道具例）
・ジャージ、バット、ヘルメット、ストレッチポール、スパイク　等





頂いた道具等の寄付は、クラブSNS等を通して周知した

今後の課題と対応方針

部活動の地域クラブ移行には持続可能な運営を実現させるためには、財源確保が必須であり、参加者からの低廉な会費徴収のみでは財源が不足してしまうため、引き続き民間企業からの寄付や、ふるさと納税を活用した取り組みを実施していく必要がある。また、生活困窮世帯への支援の在り方を検討していくことが必要。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等　ク：その他の取組　（平日の学校施設を活用した地域クラブ活動）

取組事項

萩市では、これまで平日４日間部活動の活動を実施していたが、令和6年９月（2学期）より、すべての公立中学校に対し、平日の活動日を平日は３日間とする部活動の段階的縮小の取組を実施。本取組は、地域での活動に子どもたちが向かっていくために実施するもの。
また、萩市では「陸上競技部」と「ソフトボール部」は、休日は学校部活動を完全に地域移行を実施しており、平日の部活動が開いた時間に地域クラブ活動として活動を開始している。

〔従来の活動日〕

(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
休	部活	部活	休	部活	部活	地域クラブ

〔R6.9月以降の活動日〕

(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
休	地域クラブ	部活	休	部活	部活	地域クラブ

取組の成果

これまで、学校部活動は日没時刻を目途に下校時間を設定していたため、活動の時間が30分程度しか取れない状況であったが、地域クラブ活動では、下校時刻にとらわれず、活動を行うことができた。



指導者の属性や配置の工夫

・社会人は、16時～18時の時間帯は、勤務があり、指導に向かうことが難しいため、希望する学校教員が、兼職兼業届を提出して、平日の16時～18時の時間帯の地域クラブの指導にあたった。
・16時以降は、学校教育から社会教育に切り替えて実施したため責任の所在が明確であった。

今後の課題

・活動する学校施設によっては、照明設備がなく、持ち運び式のLED照明を設置して、地域クラブ活動を実施した。今後、子どもたちの安全な活動のためハード面の整備検討が必要。
・希望する教員（兼職兼業届提出）により成り立っている活動であること。教員は人事異動があるため、教員に頼りすぎない活動基盤の構築、仕組みの整備が必要。
・市内中心校の生徒は参加できるが、旧郡部の生徒は移動が難しいため参加できない状況であった。活動に格差が生じないよう検討していく必要がある。



教員の協力





学校体育施設の整備（照明施設等）が必要

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

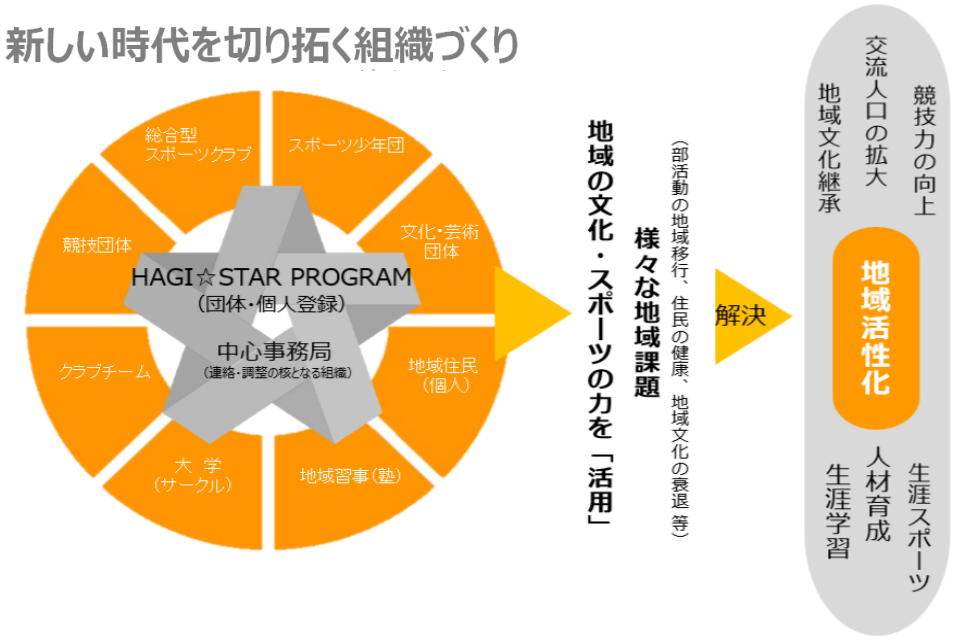
令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業では、新たな地域クラブの拡充の他、生徒の興味・関心・意欲向上を目的とした、体験会（カヌー、ソフトテニス、ボッチャ）の開催、大学生を活用した、生徒の自主的・主体的な参加による企画活動など様々な活動を通じた実証を行った。

こうした背景には、これまで萩市では地域クラブの拡充を重点に置き、取組を進めてきたが、萩市は他市に比べ広域であり、少子高齢化も進行しているため、地域ではより、受け皿の確保や生徒の移動が難しいことから、地域クラブの拡充を行っていくことは重要なことではあるが、地域格差がより広がってしまうことが分かった。また、取組を進める中で、情報が正確に伝わっていないこと、地域クラブ移行に関する周知理解が広がっていないこと、市内の教員の８割が部活動の従事を望んでいないことが分かり、「地域移行」から「地域展開」への考え方を広げていかなければ、今後の取組が難しい状況が分かった。本市としても、これを踏まえ、少子・高齢化の中でも将来にわたり子ども達がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、必要な対応について、「部活動会改革推進会議」の中で協議し、令和8年4月からの休日地域クラブ活動への移行及び令和8年８月から平日を地域クラブ活動への移行について、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現、よりよい活動環境の創出を今後もしていかなければならない。

●成果の評価・今後に向けて

令和7年１月に開催した「第９回部活動改革推進会議」萩市の今後、目指していく新たな活動の場「HAGI ☆ STAR PROGRAM （ハギスタープログラム）」の方向性等を整理を行った。

今後の事業実施に当たって、「HAGI ☆ STAR PROGRAM」組織の基本的な考え方や実施内容を関係者とより協議を重ね、「地域全体」で作り上げる「地域展開」を実施していく。令和7年度は、改革推進期間以降の、将来的な枠組みや運営方策の検討等を視野に入れて、地域クラブ活動の維持・運営に必要なコストや受益者負担等と公的資金の適切なバランスの検証、 経済的困窮世帯への参加費用負担支援の金額・スキームの検証などの取組を検討していく。 令和７年に開催される「部活動改革推進会議」では上記の方向性等を整理し、検討、協議していきたい。



2.実証内容と成果②

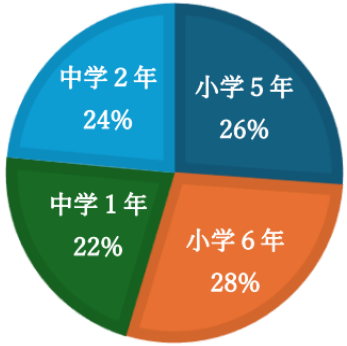
〔アンケート結果はこちら〕

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

調査対象： 萩市立小学校５・６年生 ５５１名
萩市立中学校１・２年生 ５３８名

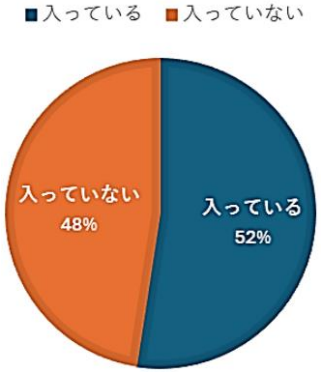


学年	在籍数	回答数	回答率
小学５年	265	211	79.6%
小学６年	286	229	80.1%
小学校合計	551	440	79.9%

学年	在籍数	回答数	回答率
中学１年	263	178	67.7%
中学２年	275	192	69.8%
中学校合計	538	370	68.8%

全体	在籍数	回答数	回答率
総計	1089	810	74.4%

あなたは、現在 、スポーツまたは 文化・芸術等の地域の活動
（クラブチームやスポーツ少年団等を含む）に入っていますか。 ※学校部活動は含まない



選択肢	人数
入っている	423
入っていない	387

学年	小５	小６	中１	中２
入っている	117	129	85	92
入っていない	94	100	93	100

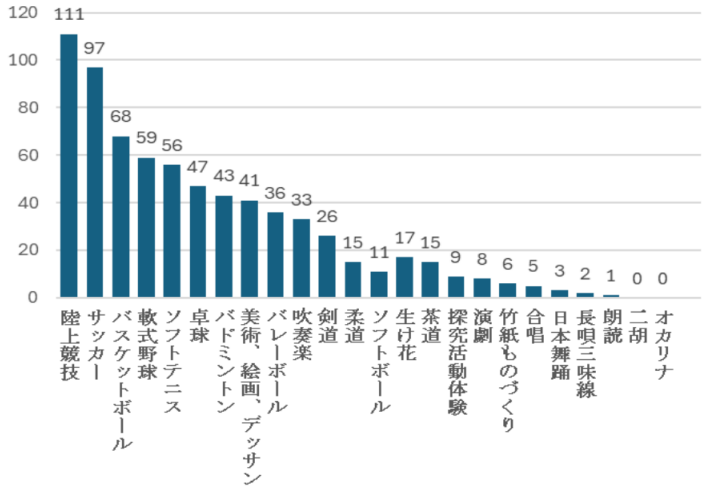
選択肢	人数
入りたい	62
入りたいと思わない	192
迷っている	133

学年	小５	小６	中１	中２
入りたい	20	17	15	10
入りたいと思わない	39	43	43	67
迷っている	35	40	35	23

選択肢	人数
活動費がかかる	39
移動手段がない	47
時間がない	56
その他	28

【その他の理由（抜粋）】
・自分の地域でできる種目が分からない
・他地域の人との関係性が不安、知り合いがいない
・船で出てくるのが大変だから
・まだ種目を決めていない など

どのような活動をしているか、してみたいか。（複数回答可）



自由記述の分類

■児童生徒：自由記述回答数 194 件/ 810 件（記述率 24.0%）
■保 護 者：自由記述回答数 344 件/ 810 件（記述率 42.5%）
■合 計：自由記述回答数 538 件/1620 件（記述率 33.2%）

【児童生徒】

項 目	割合
受け皿	31.6%
活動の目的	15.3%
移動	14.4%
部活動の在り方	8.4%
練習時間・回数	8.4%
周知理解	7.4%
施設	3.7%
活動費用	2.3%
指導者	1.9%
スケジュール	1.4%
その他	5.1%

【保護者】

項 目	割合
移動	29.8%
受け皿	20.9%
活動費用	12.6%
指導者	8.0%
練習時間・回数	7.0%
活動の目的	4.8%
部活動の在り方	3.7%
周知理解	3.0%
スケジュール	3.0%
施設	2.0%
その他	5.2%

【合計】

項 目	割合
移動	24.9%
受け皿	24.3%
活動費用	9.3%
活動の目的	8.1%
練習時間・回数	7.4%
指導者	6.1%
部活動の在り方	5.2%
周知理解	4.4%
施設	2.5%
スケジュール	2.5%
その他	5.2%

2.実証内容と成果②

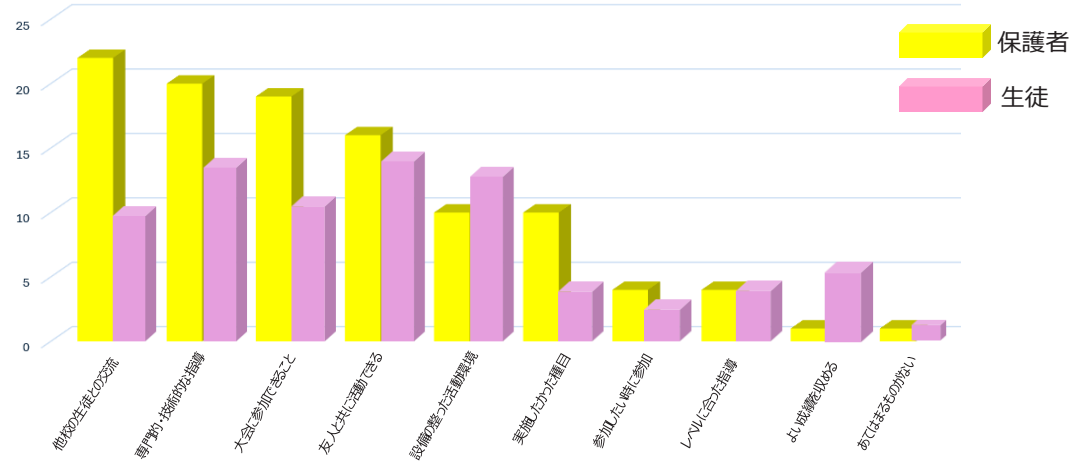
スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

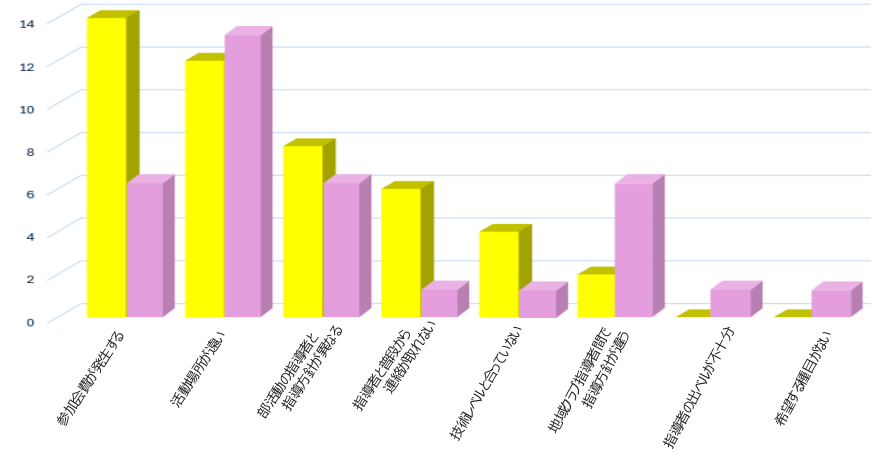
●地域クラブに関わっている生徒・保護者へのアンケート（地域クラブ実施分）

保護者回答数：37名　　生徒回答数：23名

Q.学校部活動と比較して、地域クラブ活動に参加できるようになってよかったこと



Q. 地域クラブ活動に参加する中で、課題に感じること



生徒（陸上競技）

地域クラブ活動では、レベルにあった指導や、目標に応じた指導をしてもらえるので、ありがたいです。
活動場所が、学校と、地域のグラウンドですが、雨の日など活動が難しくなることもあるので、部活動同様、校舎内を使わせてもらえたらうれしいです。

生徒（ソフトボール）

地域クラブ活動では、ソフトボールができる環境が整い、大会等に参加できてよかったです。一方、活動時間が遅いことや、活動場所までに距離があるので、移動の課題があると思います。

生徒（軟式野球）

地域クラブ活動では、専門的な指導や、多世代の方との交流ができるので良い活動ができています。

指導者（陸上競技：60代女性）

地域クラブ活動では、生徒に対し、どのような声掛けをして良いかなど、生徒を知るまでに時間がかかると感じています。そのため、よく学校と連携して、生徒のことを知ったり、限られる活動日の中で、生徒とよくコミュニケーションを取ることが重要だと思います。学校教育とは違う中で、指導者も試行錯誤しながら取り組みを進めています。

2.実証内容と成果③

SNSを活用した動画作成

スポーツ庁

広報資料

【萩市における部活動改革の取組】
（絆スポーツクラブ萩）

https://youtu.be/uer3HdAu5GA

【萩市の今後目指す方向性】
（原監督メッセージ付）

https://x.gd/Wgcfs

【大学生と連携した取組】
（地域サポート活動）

https://youtube.com/watch?v=fxLiynFi-4E&feature=shared

【民間企業の協力について】
（地元企業による指導者派遣）

https://youtu.be/8J2mUgMiEQ4?si=AlYUgKyt9fMRWhHz

【萩市での研修会の様子（ｵﾝﾗｲﾝ）】
（クラブコーチ育成研修会）

https://youtu.be/QScbYPRsF44?si=anXUBDMufNr6CjYa

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【第9回部活動改革推進会議の様子】



【青山学院大学陸上部と連携した取組（交流人口の拡大）】



【大学生と連携した地域サポート活動】



【青山学院大学陸上部と連携した地域クラブを立ち上げ】
（絆ランニングクラブ萩）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和４年	令和５年		令和６年	9月～	1月
協議会設置、検討開始 （移行スケジュールの決定）	実証事業開始 指導者研修会 受け皿の拡充	関係団体、生徒、保護者への説明	実証事業開始 指導者研修会 受け皿の拡充	クラブ化した種目は原則学校では大会出場をしない（陸上部、ソフトボール部） 部活動活動日縮小の取組（4日間 → 3日間）	第9回部活動会推進会議 （スケジュールの見直し）

●ステークホルダー

学校、生徒、保護者協会、競技団体、文化団体、市教委、総括コーディネーター、コーディネーター、PTA連合会、市議会、至誠館大学、青山学院大学陸上部

●経過

・令和5年度より部活動改革推進会議を設置。萩市、青山学院大学陸上部、（一社）アスリートキャリアセンター、（一社）絆スポーツクラブ萩の４社協定を締結し、部活動地域クラブ移行に係る取組を開始した。
・先行取組種目として、萩市内の陸上競技部の休日の学校部活動を廃止。
・第7回部活動改革推進会議において、「萩市部活動改革のスケジュール」※を示した。
※令和８年４月から、休日の学校部活動を終了し、さらに８月の新チームからは、平日を含むすべての学校部活動を地域移行を目指す。
・令和6年度より萩市教育委員会内に部活動改革推進室の設置、総括コーディネーターを配置し、cs1プロジェクト（コミュニティ・スポーツ文化・ワン）の取組を実施。
※中学校区のコミュニティに小中一貫指導を行う１つのスポーツクラブ設立により、生活圏内で身近で活動できるスポーツ、文化クラブの創設をめざす。
・令和6年1月　第8回部活動改革推進会議を開催し、「萩市における部活動改革推進組織」について「地域クラブの認定要件について」の協議。
・令和7年1月　第9回部活動改革推進会議を開催し、「萩市部活動改革のスケジュール」の一部見直し案を提案。

●実施内容

〔令和６年度の主な取組〕

・原則クラブ化した種目について学校部活動としての大会参加はなし。
・令和７年度は、原則、すべての学校部活動で、平日の活動日は週３日以内をとする。
（対象種目：陸上競技、ソフトボール）
・大学との連携により、地域クラブが少ない周辺地域の中学校へ大学生を派遣し、「やってみたい」活動の創出や多世代との交流等、自主的で、自発的な活動を支援していく。（地域サポート活動）
・10月　萩市内の小学校5,６年生、中学生1,2年生、またその保護者を対象にアンケート調査を実施。
（回答数：小学校計 440名/551名　、　中学校計　370名/538名　）
・11月　萩市内学校教員に対し、兼職兼業に関する希望調査アンケートを実施）
（回答数：教員数計 315名/340名　、　262名（83%）が協力できないと回答 ）

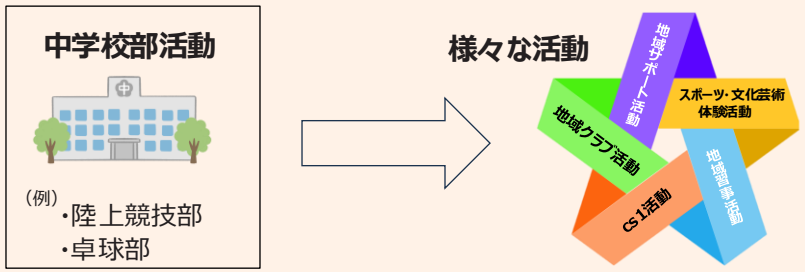
●実施にあたって生じた課題

・原則クラブ化した種目について学校部活動としての大会参加はなし。
→　秋の陸上新人大会について地域クラブで出場し、総合優勝を獲得した一方、生徒の出場選択の機会を奪っているのではないかとの意見があった

・令和７年度は、原則、すべての学校部活動で、平日の活動日は週３日以内をとする。
→　受け入れ団体確保の取組を実施する中で、部活動を縮小することは、生徒は行き場のない中、活動機会が奪われることとなるのではという意見があった。
※当初予定は、R7は部活動の平日の活動日は週２日とする予定としていたが、平日の活動日は週３日以内を継続することとなった。

●今後の展開

・広域で島嶼部もあり、他市に比べて少子化が進行する萩市にとって、単に部活動を地域クラブに移行するのみでは、子ども達の多様なニーズを叶えていくことは難しいことが分かった。
・「地域移行」が進まない理由の一つに、「情報が正確に伝わっていない」事が分かり、今後は「地域移行」から「地域展開」という多様な地域人材により、多様なスポーツ・文化芸術活動を通じて子どもたち一人ひとりが生涯にわたって、星のように輝くことができるよう「地域全体」でサポートする仕組みの構築が必要である。
・萩市では、「地域全体」で子ども達をサポートする部活動に変わる「新たな活動の場」「HAGI ☆ STAR PROGRAM （ハギスタープログラム）」の取組を今後実施、展開する。

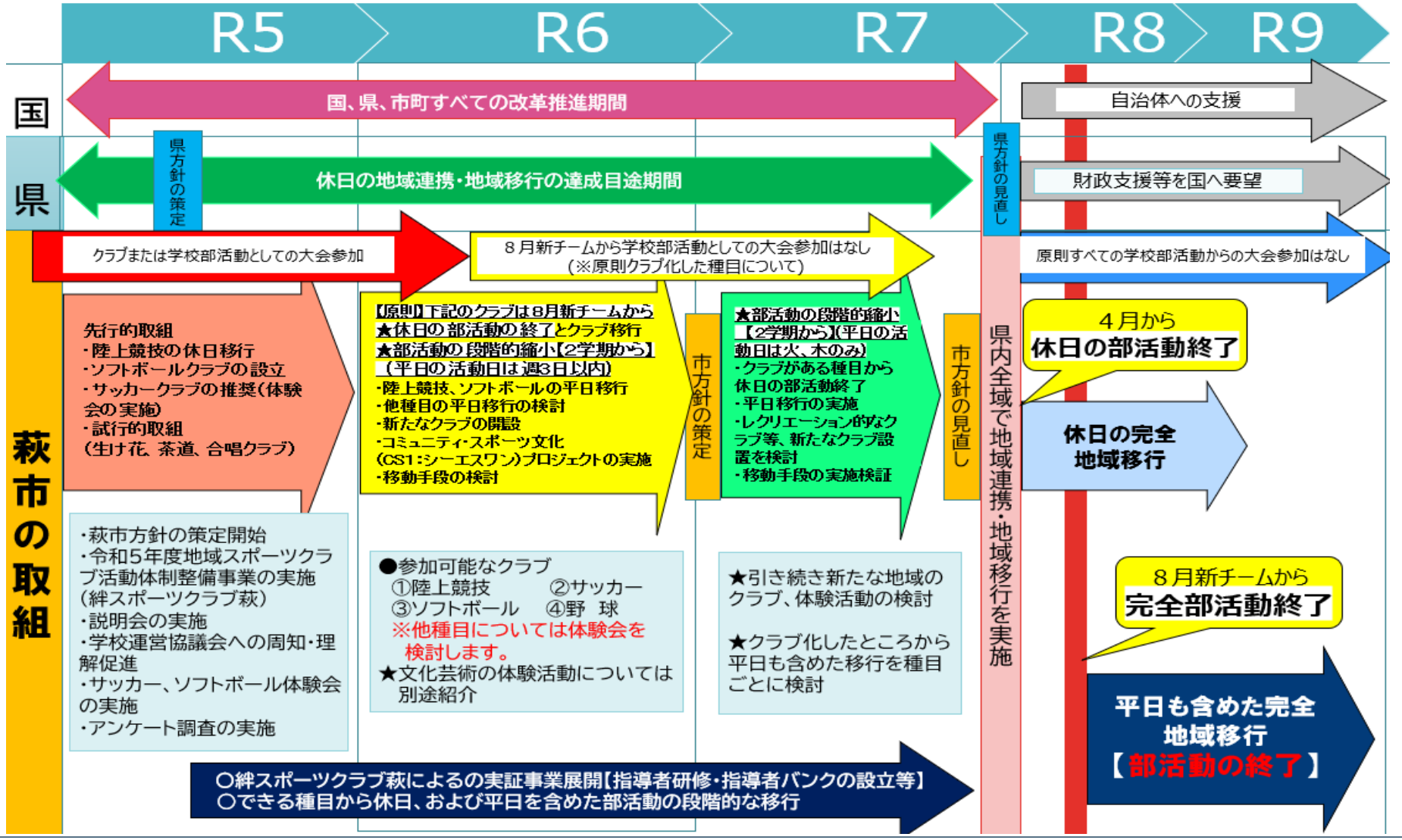


3.今後の方向性①
（スケジュール）

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ（第7回 部活動改革推進会議時策定）

中学校部活動の移行にかかる改革のスケジュール

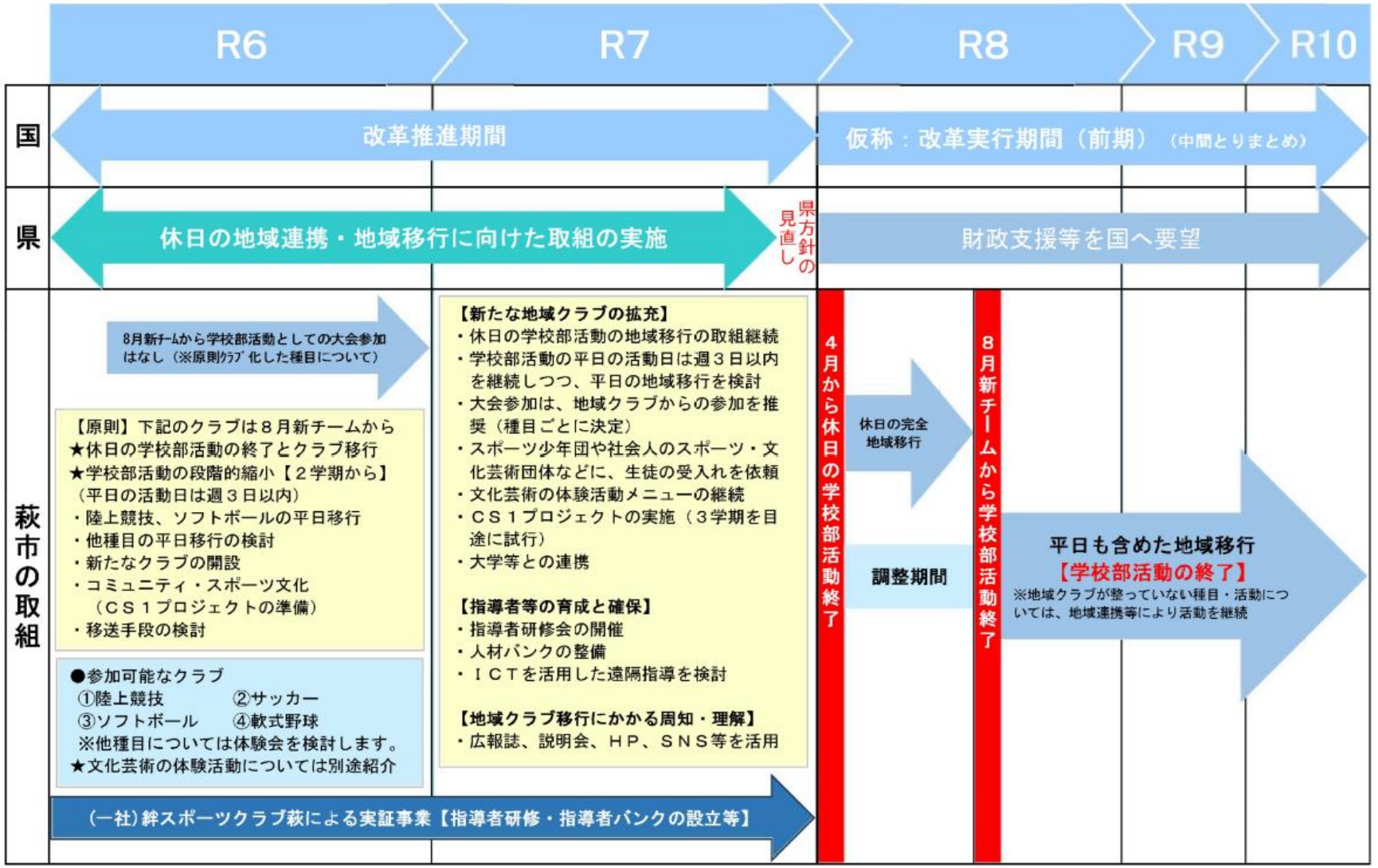


3.今後の方向性②
（スケジュール）

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ（第９回 部活動改革推進会議以降変更）

萩市における中学校部活動の地域移行（一部地域連携を含む）にかかる改革のスケジュール



3.今後の方向性③-1
（目指す姿）

萩市が考える新たな活動の場のイメージ
～地域移行から地域展開へ～

スポーツ庁

（ハギ　スター　プログラム）
HAGI ☆ STAR PROGRAM

〔HAGI ☆ STAR PROGRAM とは〕

様々なスポーツ・文化芸術活動を通じて、子どもたち一人ひとりが生涯にわたって、星のように輝くことができるよう「地域全体」でサポートする仕組みです。

〔HAGI ☆ STAR PROGRAM コンセプト〕

★部活動に無かった新種目や気軽に取り組める活動など、多様な活動を確保し、ニーズに合った活動の場を「地域全体」で提供します。
★持続可能なスポーツ・文化芸術活動を構築し「地域全体」で未来に繋いでいきます。
★「地域全体」で子どもたちの挑戦を支え、子どもたちを育てます。

01 地域クラブ活動
従来の学校の部活動に
変わる新たな活動の場

02 CS1活動
（コミュニティ・スポーツ文化クラブ）
生徒の活動を各中学校区で
支える活動の場



05 地域サポート活動
地域のサークルや団体、学生など多様な地域
住民がサポートする活動の場

04 スポーツ・文化芸術 体験活動
興味・関心・意欲向上を 目的

03 地域習事活動
従来からある地域の習い事

3.今後の方向性③-2
（目指す姿）

萩市が考える新たな活動の場のイメージ
～地域移行から地域展開へ～

スポーツ庁

